

第4章

保健対策課

保健対策課は保健対策担当、感染症対策担当及び地域保健担当で組織され、専門的な対人保健サービスの提供と、保健医療を中心とした地域ネットワーク構築を役割として、感染症対策、障害児(者)保健、難病対策、精神保健福祉及び医療費助成等を実施した。

1 感染症予防対策

各種感染症対策を実施している。

(1) 感染症対策

感染症発生時には、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づいた疫学調査(法第15条)や健康診断(法第17条)等を行い、感染拡大防止や二次感染予防、感染症に対する普及啓発等を行った。また、平常時から、感染症発生動向調査事業や小児感染症サーベイランス事業により、感染症の発生状況を迅速に収集し、ホームページや広報等で市民や医療機関等に情報を発信するとともに、感染症の流行時等には、必要に応じ学校等への周知とともに注意喚起を行った。

ア 感染症届出状況

法第12条に基づく八王子市内の医療機関からの令和4年1類～5類・新型コロナウイルス感染症の全数届出件数は94,628件であった。

感染症発生届出件数(表1-1)

(令和4年(2022年)1月1日～令和4年(2022年)12月31日)

区分	疾病名	令和2年	令和3年	令和4年
	総数	1,467	8,914	94,628
1類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう(天然痘)	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
2類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	65	61	49
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
3類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	12	16	12
	腸チフス	0	0	0
	パラチフス	0	0	0
4類	A型肝炎	2	0	0
	レジオネラ症	11	7	7
	E型肝炎	2	2	5
	つつが虫病	1	1	1
	マラリア	0	0	0

5 類	アメーバ赤痢	3	5	3
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5	12	9
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	2	0
	後天性免疫不全症候群	5	4	1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	1	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	1	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	7	2
	梅毒	16	35	40
	麻しん	0	0	0
	風しん	1	0	0
	水痘(入院例に限る)	2	2	1
	百日咳	13	4	1
新型コロナウイルス感染症	1,326	8,753	94,496	

イ 感染症の診査に関する協議会

法に基づき、入院の勧告、就業制限、結核患者等の医療費公費負担等について、保健所に設置された「感染症の診査に関する協議会」で必要な事項を審議し、その意見を反映した。令和4年度は38回開催した。

ウ インフルエンザ様疾患集団発生報告

小中学校等のインフルエンザ様疾患による臨時休業の報告を受け状況を把握した。

インフルエンザ様疾患臨時休業状況(延べ数)(表1-2)

年度	区分	計	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2	学校数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学級数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	学校数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学級数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	学校数	72	0	0	1	1	17	27	10	0	9	7
	学級数	157	0	0	5	1	58	47	23	0	16	7

エ 健康診断

感染症発生時に、法第17条に基づき、患者・関係者に対し健康診断を実施した。(結核に関するものは別途記載)

検便実施状況(表1-3)

年度	検査件数	陽性者総数	内 訳		
			腸管出血性 大腸菌感染症	パラチフス	赤痢
2	52	6	6	0	0
3	71	9	9	0	0
4	51	4	4	0	0
内訳	病後経過者	25	4	0	0
	患者関係者	26	0	0	0

オ 積極的疫学調査

感染症発生時、積極的疫学調査を行い、感染経路の特定や二次感染の予防に努めた。また、必要時には調査の一環として検体検査(麻しん等)を行った。

積極的疫学調査実施状況(表1-4)

年度(区分)	麻しん	ノロウイルス	赤痢	腸管出血性大腸菌	結核	レジオネラ	コロナ	その他	計	
令和2年度	0	14	0	10	14	12	106	13	169	
令和3年度	1	20	0	19	15	8	444	64	571	
令和4年度	高齢者福祉施設	0	3	0	0	8	0	208	1	220
	障害者福祉施設	0	2	0	0	0	0	71	0	73
	学校	0	1	0	1	1	0	0	4	7
	保育園・幼稚園	0	34	0	0	0	0	0	74	108
	病院	0	0	0	0	13	0	84	0	97
	その他	0	0	0	0	1	0	1	0	2
	小計	0	40	0	1	23	0	364	79	507
	個人	0	1	0	16	1	6	0	19	43
合計	0	41	0	17	24	6	364	98	550	

カ 肝炎ウイルス検査、相談及び陽性者への保健指導

過去に検査を受けたことがなく、かつ職場等でも検査を受ける機会のない39歳以下の市民を対象に、B型肝炎及びC型肝炎ウイルス検査を市内医療機関に委託して無料で行うとともに、陽性者(健康増進法による40歳以上の検診対象者を含む。)に対しては、治療勧奨、肝炎手帳の配布、医療費助成の案内等、保健指導を行った。陽性者には、早期に専門医療機関に繋がる重要性を周知した。また、ウイルス肝炎に関し、健康不安を抱える市民等からの相談を受け、検診の勧奨や正しい知識の普及に努めた。

ウイルス肝炎検査等実施状況(表1-5)

年度	陽性者 ※			陽性者への保健指導		
	計	B型	C型	計	B型	C型
2	0	0	0	0	0	0
3	10	8	2	10	8	2
4	6	4	2	6	4	2

※健康増進法による検診対象者を含む

キ 八王子市小児感染症サーベイランス事業

八王子市における小児感染症にかかわる情報を迅速に収集・分析・発信し、小児感染症のまん延を防止するために、感染症発生動向調査事業の定点である11医療機関に、市独自の3医療機関を加えた市内の小児科14医療機関の協力により、毎週報告を集約しホームページで情報を発信している。

ク 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症患者に対し、「感染症法」に基づく入院勧告や就業制限等を行うとともに、感染症の診査に関する協議会を開催し、入院の必要性や期間を審議した。また、感染経路の調査の結果、新たに感染が疑われる者に対してPCR検査を実施し、感染者を早期に把握し感染拡大防止に努めた。

感染者数(表1-6)

(令和4年(2022年)1月1日～令和4年(2022年)12月31日)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2		0	5	37	4	10	111	114	153	64	234	594	1,326
3	799	321	473	555	645	258	894	3,849	896	36	17	10	8,753
4	6,152	13,848	9,701	4,952	2,953	1,422	16,396	24,462	8,292	2,417	8,944	15,717	115,256

*令和4年(2022年)9月26日から発生届の簡略化により、発生届対象者数と東京都陽性者登録センターへの登録者数の合算となるため、表1-1の感染症発生届出件数とは異なる。

(ア) 地域医療体制支援拠点の設置

市災害医療コーディネーター等の協力を得て、地域医療体制支援拠点を設置し、一元的な感染者の入院受診調整のほか、市内新型コロナ患者受入病院や後方支援病院の空床情報を共有し、医師会や医療機関との定例WEB会議等を行った。

調整件数(表1-7)

開設期間	入院調整	受診調整	民間救急調整
第5波(令和3年8月16日～9月30日)	193件	227件	
第6波(令和4年1月20日～3月22日)	227件	142件	62件
第7波(令和4年7月25日～9月16日)	283件	115件	205件
第8波(令和4年11月16日～令和5年1月31日)	323件	54件	207件

(イ) 八王子市新型コロナ登録センターを開設

第7波における感染者の急拡大を受け、発熱外来等のひっ迫を防ぐため、八王子市新型コロナ登録センターを開設し、陽性者登録を行った。(令和4年(2022年)8月9日～令和4年(2022年)9月25日)

申請・登録状況(表1-8)

	申請件数	登録件数
合計	1623件	1142件
一日あたりの件数	29.5件	20.8件

(ウ) 受診行動等の啓発

第8波では、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行が懸念されたため、八王子市医師会監修のもと、市民向けに『医療ひっ迫時の行動の目安』を作成した。受診前に自己検査を行うよう勧奨し、医療ひっ迫を防ぐための受診行動等について啓発した。

(2) エイズ対策

HIV／エイズ予防のための知識の普及と感染に対する不安、悩み等の解決を図るため、医師、保健師による相談(電話・来所)及びHIV検査を行った。HIV検査は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、縮小して実施。

HIV検査時、希望者には併せて、梅毒、クラミジア感染症、淋菌感染症の性感染症の検査も実施した。

エイズ相談・HIV抗体検査実施状況(表1-9)

年度	相談			HIV検査	性感染症検査		
	合計	電話	来所		梅毒	クラミジア	淋菌
2	597	214	383	185	182	173	173
3	630	117	513	255	252	241	241
4	747	207	540	265	264	260	260

エイズ普及啓発等実施状況(表1-10)

実施年月日	内容	場所	配布数
令和2年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施なし		
令和3年度			
令和4年6月9日	HIV・性感染症予防のための普及啓発活動 (チラシとコンドームの配布)	八王子駅北口	170
令和4年6月9日		南大沢駅	230
令和4年11月22日		八王子駅南口	200
令和4年12月1日		中央大学	200

(3) 結核対策

結核の予防、早期発見、早期治療、再発防止及び感染拡大防止を図るため、患者登録、入院勧告、就業制限、療養支援、治療終了後の管理検診及び家族・接触者に対する健康診断・保健指導を実施するとともに医療費の公費負担事務を行った。また、患者支援として地域DOTS(Directly Observed Treatment, Short-course:直接服薬確認療法)事業を行っている。

ア 結核登録者状況

新登録患者数(活動性分類、受療別)(表1-11) (令和4年(2022年)1月1日～令和4年(2022年)12月31日)

区分	登録患者数								潜在性結核 (別掲)	
	登録者総数	活動性結核								
		肺結核活動性						肺外結核 活動性		
		総数	喀痰塗抹陽性			その他の 結核菌陽性	菌陰性・ その他			
総数	初回治療		再治療							
2年総数	45	32	22	21	1	8	2	13	22	
3年総数	42	33	16	15	1	11	6	9	15	
4年総数	36	28	16	14	2	9	3	8	11	
医療 形態	入院中	18	16	15	13	2	1	0	2	0
	外来治療中	17	11	0	0	0	8	3	6	11
	治療なし	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0

新登録患者数(活動性分類、年齢階級別)(表1-12) (令和4年(2022年)1月1日～令和4年(2022年)12月31日)

区分	登録患者数								潜在性結核 (別掲)
	登録者 総数	活動性結核							
		肺結核活動性						肺外結核 活動性	
		総数	喀痰塗沫陽性			その他の 結核菌陽性	菌陰性・ その他		
総数	初回治療		再治療						
2年総数	45	32	22	21	1	8	2	13	22
3年総数	42	33	16	15	1	11	6	9	15
4年総数	36	28	16	14	2	9	3	8	11
～ 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～ 9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～ 14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15～ 19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～ 29	2	2	0	0	0	1	1	0	1
30～ 39	2	0	0	0	0	0	0	2	1
40～ 49	2	1	0	0	0	1	0	1	3
50～ 59	4	3	2	2	0	1	0	1	3
60～ 69	2	1	0	0	0	1	0	1	2
70～	24	21	14	12	2	5	2	3	1

年末現在登録者数(活動性分類、受療別)(表1-13)

(令和4年(2022年)12月31日現在)

区分	登録患者数											潜在性結核 (別掲)	
	登録者 総数	活動性結核									不活動性 結核		
		肺結核活動性						肺外結核 活動性					
		総数	喀痰塗沫陽性			その他の 結核菌陽性	菌陰性・ その他						
総数	初回治療		再治療										
2年総数	94	33	26	15	14	1	10	1	7	57	4	14	28
3年総数	98	32	22	11	10	1	8	3	10	62	4	11	13
4年総数	85	20	15	7	7	0	6	2	5	63	2	9	2
医療 形態	入院中	4	4	3	3	3	0	0	0	1	0	0	0
	外来治療中	15	15	11	3	3	0	6	2	4	0	0	9
	治療なし	66	1	1	1	1	0	0	0	0	63	2	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

年末現在登録者数(活動性分類、年齢階級別)(表1-14)

(令和4年(2022年)12月31日現在)

区分	登録患者数												潜在性結核 (別掲)		
	登録者総数	活動性結核										不活動性結核			活動性不明
		総数	肺結核活動性							肺外結核活動性					
			総数	喀痰塗沫陽性			その他の結核菌陽性	菌陰性・その他							
総数	初回治療	再治療		治療中	観察中										
2年総数	94	33	26	15	14	1	10	1	7	57	4	14	28		
3年総数	98	32	22	11	10	1	8	3	10	62	4	11	13		
4年総数	85	20	15	7	7	0	6	2	5	63	2	9	2		
～4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
5～9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
10～14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
15～19	2	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0		
20～29	9	1	1	0	0	0	0	1	0	7	1	1	0		
30～39	3	2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0		
40～49	6	1	1	0	0	0	1	0	0	5	0	2	0		
50～59	12	1	1	1	1	0	0	0	0	11	0	3	1		
60～69	8	2	1	0	0	0	1	0	1	6	0	2	1		
70～	45	12	10	6	6	0	3	1	2	32	1	1	0		

イ 結核患者に対する医療

感染症の診査に関する協議会において、結核医療の適否について診査を行った。この結果、承認された者に対して、医療費公費負担を実施した。

結核医療費関係公費負担診査状況(表1-15)

区分	通院患者(37条の2)			入院患者(37条)		
	申請	承認	不承認	申請	承認	不承認
2年度総数	84	84	0	69	69	0
3年度総数	75	75	0	47	46	1
4年度総数	64	63	1	50	50	0
初回	49	48	1	32	32	0
継続再発	15	15	0	18	18	0

結核地域DOTS事業支援状況(表1-16)

区分	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	計
2年度	18	1	51	70
3年度	16	0	41	57
4年度	17	2	36	55

Aタイプ:治療中断リスクが高い患者・・・保健所来所、保健師その他関係者の自宅訪問、調剤薬局等でほぼ毎日服薬確認

Bタイプ:服薬支援が必要な患者・・・保健所の来所または調剤薬局等で服薬確認

Cタイプ:A、Bタイプ以外の患者・・・電話・手紙・調剤薬局等で服薬確認

ウ 結核検診

結核健康診断実施状況(表1-17)

区 分	検 査 内 容						結核有所見		
	総 数	ツベルクリン 反 応 検 査	QFT検査等	エックス線 間 接 撮 影	エックス線 直 接 撮 影	喀 痰 検 査	結 核 患 者	要 観 察 者	
2年度	672	5	184	0	483	0	3	3	
3年度	331	0	83	0	248	0	4	5	
4年度	632	0	196	0	436	0	4	3	
接触者健診	248	0	196	0	52	0	4	2	
内訳	患者家族	54	0	33	0	21	0	1	1
	接触者	194	0	163	0	31	0	3	1
管理検診	16	0	0	0	16	0	0	0	
結核対策特別促進事業	368	0	0	0	368	0	0	1	
受託検診	0	0	0	0	0	0	0	0	

結核健康教育(表1-18)

年度	開催回数		参加人数	
令和2年度	9回		203人	
令和3年度	10回		180人	
令和4年度	14回		378人	
令和4年度内訳	内容	講師	対象者	参加者数
6月20日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	3
6月21日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	3
7月13日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	22
7月13日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	58
9月2日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	80
9月2日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	27
8月29日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	93
8月29日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	1
12月9日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	16
12月9日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	1
12月9日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	8
12月9日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	1
12月9日	結核予防対策講習会	保健師	日本語学校学生	61
3月30日	結核予防対策講習会	保健師	高齢者施設職員	4

2 精神保健福祉

精神保健福祉活動の第一線機関として、精神障害の早期発見・早期治療の促進及び精神障害者の社会復帰・社会参加を援助するため、相談、訪問指導、精神保健福祉に関する教育、広報活動、患者・家族等の組織育成等の事業を行っている。また、庁内の関係部署や地域の関係機関と日常的な連携を図り、安心して暮らしやすい地域づくりを目指している。

(1) 地域精神保健医療福祉推進会議及び実務者連絡会

精神障害に対する地域ケアの充実と地域住民の心の健康の保持増進を総合的かつ効果的に進めることを目的に、地域の関係機関の代表者による意見交換の場として、「八王子市地域精神保健医療福祉推進会議」を設置している。また、具体的な課題について検討するため、関係機関の実務担当者による「実務者連絡会」を設置している。

地域精神保健医療福祉推進会議(表2-1)

開催回数			内 容
2年度	3年度	4年度	
1 (書面開催)	1	1	①精神保健福祉事業実績報告 早期訪問支援事業実績報告 自殺対策実施事業について ②八王子市における「にも包括」について

地域精神保健医療福祉実務者連絡会(表2-2)

開催数			内 容
2年度	3年度	4年度	
-	-	1	①令和3年度精神保健福祉事業実績報告 ②八王子市における「にも包括」の取り組みについて ③「にも包括」に関する意見交換

*令和2年度(2020年度)、3年度(2021年度)は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

(2) 精神保健福祉相談

精神疾患に関する診断や対応方法等について、専門医等による一般精神保健福祉相談、高齢者精神保健相談、酒害相談及び思春期相談を実施した。保健師による家庭訪問、来所面談、電話相談等は随時実施している。

精神保健福祉相談・訪問指導(専門医による)(表2-3)

年 度	精 神 保 健 福 祉 相 談							(再掲)精神保健福祉訪問指導							
	実施回数	実人員	延人員	内 訳				実施回数	実人員	延人員	内 訳				
				高齢者	酒害	思春期	一般精神保健				高齢者	酒害	思春期	一般精神保健	その他
2	29	67	69	10	8	15	36	1	1	1	0	0	0	1	0
3	29	50	52	4	4	14	30	0	0	0	0	0	0	0	0
4	33	104	105	13	5	31	58	1	2	2	0	0	2	0	0

精神保健福祉延相談数(保健師による)(表2-4)

年 度	老人精神	社会復帰	依存症	児童・思春期	心の健康づくり	摂食障害	てんかん	一般精神	その他	合計	
2	146	211	512	137	1,330	58	5	9,419	19	11,837	
3	111	96	358	180	1,288	9	13	7,805	68	9,928	
4	64	87	340	185	2,331	17	105	10,409	41	13,579	
内 訳	家庭訪問	0	8	32	9	92	0	11	542	1	695
	面接相談	4	20	32	43	208	3	11	639	2	962
	電話相談	38	43	185	101	1,570	7	43	6,831	24	8,842
	文書等相談	0	0	9	2	2	0	3	43	0	59
	関係機関連絡	22	16	82	30	459	7	37	2,354	14	3,021

(3) 未治療・治療中断患者等地域支援事業(困難事例検討会)

保健師が地区活動を実施している対象者で、多問題で対応が困難な未治療・治療中断事例を、東京都立多摩総合精神保健福祉センターの医師や職員をスーパーバイザーとして事例検討し、課題解決に繋げている。

(4) 精神障害者早期訪問支援事業

地域で生活している未治療・治療中断等の精神障害者及びその家族等に対し、早期に訪問支援等を実施し、病状の診たて、生活状況の確認を行い、支援方針を検討した中で、受診勧奨、本人・家族への心理的・社会的サポートを行っている。
なお、支援に際し、市内精神科病院精神科医師のスーパーバイズや、事業の評価のための運営評価会議を行っている。

早期訪問支援事業による活動実績(表2-5)

年 度	活動実績回数	支援実人数	家庭訪問延べ回数	来所面接延べ人数
2	51	51	77	17
3	67	74	101	27
4	133	85	97	36

・連絡調整会：6回(保健所職員、市内病院精神保健福祉士、東京都立多摩総合精神保健福祉センター職員)

・精神科医師によるスーパーバイズ：5回

運営評価会議(表2-6)

年度	開催回数	内 容	参加者数
2	—	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	—
3	1(書面開催)	令和2年度実績報告	30
4	1	令和3年度実績報告	29

・運営評価会議：1回(市内精神科病院病院長・精神保健福祉士、保健所職員、東京都立多摩総合精神保健福祉センター職員)

(5) 精神保健福祉法に基づく医療保護入院

精神保健福祉指定医に精神障害があると診断され、かつ医療及び保護のため入院の必要があると認められた場合、本人の同意がなくても、その家族等の同意があれば、入院(医療保護入院)させることができる。
 当所が進達した管内の精神科病院(16か所)が扱った医療保護入院数は表のとおり。

医療保護入院届出数(法第33条第1項)(表2-7)

年 度	管内 総計	症状性を含む器質性 精神障害 (F00~F09)			精神作用物質使用による 精神及び行動の障害 (F10~F19)			(F 20 ~ F 29) 統合失調症・分裂型障害及び妄想性障害	気分(感情)障害(F30~F39)	(F 40 ~ F 48) 神経性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害	(F 50 ~ F 59) 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	成人の人格及び行動の障害(F60~F69)	知的障害(精神遅滞)(F70~F79)	心理的発達障害(F80~F89)	小児(児童)期及び青年期に通常発生する行動及び情緒の障害(F90~F98)	詳細不明の精神障害(F99)	
		小 計	内 訳		小 計	内 訳											
			認 知 症	認知症以外		ア ル コ ー ル 使 用 (飲酒)による	覚 せい 剤 (アンフェタミン)										その他の使用
2	1,825	653	556	97	109	96	4	9	603	262	73	4	19	51	39	12	0
3	1,938	762	644	118	118	95	7	16	580	289	62	8	15	50	36	18	0
4	1,955	711	613	98	106	90	2	14	602	304	71	15	13	70	46	17	0

(6) 警察官通報等による診察及び保護の申請、通報の受理

警察官等は、精神障害のために自傷他害のおそれがある者を発見したときは、直ちに、最寄りの保健所長を経由して知事に通報することになっている。

精神保健福祉法に基づく診察及び保護の申請、通報受理数(表2-8)

年 度	管内総数	内 訳			
		第22条	第23条	第26条の2	第26条の3
		(一般人の申請)	(警察官の通報)	(精神病院管理者の届出)	(心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に係る通報)
2	107	0	107	0	0
3	106	1	105	0	0
4	103	0	103	0	0

(7) 社会復帰促進事業精神保健グループ(デイケア)

回復途上の精神障害者がスポーツ、創作、ミーティング、屋外活動等の集団生活指導を通じて、社会生活の適応と対人関係の改善を図ることを目的として、保健所で月3回行っている。また、グループワークのほか、個別相談会を年3回実施し、目標の確認や修了後の生活イメージを持つなどステップアップを図った。このほか評価会議と運営会議をそれぞれ年1回実施し、事業方針及び実績の評価を行った。

社会復帰促進事業精神保健グループ(デイケア)実施状況(表2-9)

年度	実施回数	参加者数	
		実参加者(人)	延べ参加者(人)
2	25	12	182
3	35	12	208
4	32	11	183

社会復帰促進事業精神保健グループ(デイケア)参加者の動向(表2-10)

年度	総数(実人数)		継続					終了 計	
			計	保健所のみ	作業所等併用	他デイケア	その他		
2	12	男	5	4	3	1	0	0	1
		女	7	6	5	1	0	0	1
3	12	男	5	4	1	2	1	0	1
		女	7	3	1	1	1	0	4
4	11	男	7	4	2	1	1	0	3
		女	4	3	1	1	0	1	0

社会復帰促進事業精神保健グループ終了者の動向(表2-11)

年度	総数(実人数)		自宅療養	若者サポート ステーション	病院デイケア	作業所等	就労・就学	その他
2	5	男	1	1	0	0	0	0
		女	4	1	1	1	0	0
3	5	男	1	1	0	0	0	0
		女	4	1	1	1	0	0
4	3	男	3	0	0	1	1	1
		女	0	0	0	0	0	0

(8) 思春期の課題を抱える家族グループ

社会的引きこもり等の課題を抱える家族を対象に、家族がより良い対応やコミュニケーションの工夫を学び、「引きこもり」等の理解と回復を目的に、親のためのグループワークを実施(月1回開催)している。グループ運営会議を年1回実施し、事業方針及び実績の評価を行った。

思春期の課題を抱える家族グループ実施状況(表2-12)

年度	実施回数	参加者数	
		実参加者(人)	延べ参加者(人)
2	3	23	28
3	5	20	50
4	9	17	102

(9) 組織育成・普及啓発事業等

こころの健康づくり普及啓発講演会

精神保健福祉に関する知識の普及を図り、地域住民のこころの健康の保持増進を目指すことを目的に、年1回講演会を実施している。

こころの健康づくり普及啓発講演会(表2-13)

年度	開催回数	対象	テーマ	講師	参加人数
2	—	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の為中止			—
3	—				—
4	1	支援者	援助者が疲弊しやすいケースへの対応方法やその人の病理理解	成仁病院 春日武彦医師	45

(10) 自殺対策

自殺の背景は、健康問題、経済・生活問題、家族問題、勤務の問題等が複雑に関係し、追い込まれた末の死といわれている。八王子市では、自殺対策を総合的かつ効果的に推進するため、庁内関係部署からなる「八王子市自殺対策庁内連絡会」を設置し、情報共有や連絡調整、事業連携を図ってきた。これまでの取り組みを発展させる形で、総合的に自殺対策を推進するため、平成30年度に、八王子市自殺対策計画を策定し、計画に基づく取り組みを展開している。

ア 自殺対策庁内連絡会・自殺対策検討会議・自殺未遂者支援会議 会議実施状況(表2-14)

会議名	実施回数		
	2年度	3年度	4年度
自殺対策庁内連絡会	1	1	2
自殺対策検討会議	1	1	2
自殺未遂者支援会議	2	2	2

イ 身近なゲートキーパー養成

自殺に関する普及啓発とともに自殺の危険のある人を早期に発見し、自殺予防のために連携協力して取り組む身近なゲートキーパーの養成研修を、民生委員等の依頼教育時や旅館施設管理者講習会等の機会を活用し、実施した。

身近なゲートキーパー養成状況(表2-15)

年度	開催回数	参加者数
2	3	36
3	3	96
4	3	80

ウ 広報、啓発等

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、管理者・支援者向け研修や講演会等の開催を中止し、また、南多摩保健医療圏自殺対策推進者養成研修講演会(南多摩医療圏保健所共催)も中止となったが、自殺対策強化月間(9月・3月)に合わせ、広報掲載、保健所前に啓発看板の掲示、河川情報掲示板、ケーブルテレビやYouTubeによるゲートキーパーに関する配信を実施した。また「こころの体温計」による啓発を行った。

エ わかち合いの会

自死で大切な家族を亡くされた方への支援を行う会。令和2年度から令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止や回数を縮小して実施。市外からの利用者もいる。

わかち合いの会実施状況(表2-16)

年度	開催回数	参加者数
2	0	0
3	3	14
4	6	24

(11) 家族会支援

精神障害者の社会復帰の促進、自立と社会経済活動への参加の促進のため、精神障害者の家族会、認知症高齢者家族会に情報提供や相談支援を行っている。

家族会開催状況(表2-17)

会の名称	対象	参加回数		
		2年度	3年度	4年度
わかくさ家族の会	八王子市の精神障害者を持つ家族	3	5	8
さーくる南	南大沢周辺の精神障害者を持つ家族	5	7	10
ふれあいの会	八王子市の認知症高齢者を持つ家族	2	2	0

3 特殊疾病(難病)対策

特殊疾病の患者・家族は、疾病の特殊性から医療面・経済面・介護面等に種々の問題を抱え、長期療養となっている。保健所では医療機関、訪問看護ステーション、介護サービス事業所等の地域の関係機関とネットワークの充実を図りながら、患者・家族の医療や療養生活に関する問題に対し支援を行っている。

(1) 特殊疾病対策事業訪問相談

特殊疾病対策事業訪問等相談実施状況(表3-1)

年度	総数	家庭訪問	所内相談	電話相談	その他の相談	関係機関連絡	
2	1,065	178	33	311	74	469	
3	979	232	47	297	25	378	
4	1,119	199	65	513	19	323	
内 訳	保健師	1,096	176	65	513	19	323
	理学療法士	23	23	0	0	0	0
	作業療法士						
	言語聴覚士						
栄養士	0	0	0	0	0	0	

(2) 難病講演会

講演会実施状況(表3-2)

年度	参加人員	内 容
2	-	新型コロナウイルス感染症感染防止拡大の為中止
3	-	新型コロナウイルス感染症感染防止拡大の為中止
4	47人	「パーキンソン病を知ろう、そして考えよう」 永生病院 パーキンソン病センター 脳神経内科 久保信一郎医師

(3) 患者会支援育成

喜楽会(パーキンソン病患者交流会)、八王子にじの会(脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の療養者・家族の会)の2団体を支援した。

患者会開催状況(表3-3)

年度	開催回数	参加者数
2	13	209
3	12	176
4	20	271

(4) 医療機器貸与及び訪問看護

気管切開、人工呼吸器装着の難病等の在宅療養者に東京都医療機器貸与事業により、吸引器・吸入器の貸与を行っている。

この制度を活用している事例では、多機関多職種の支援を得て在宅療養をしているため、保健師が在宅療養に係る関係機関の連絡調整を行い、患者・家族の安定した療養環境の整備に努めている。

医療機器貸与実施状況(表3-4)

年度	貸与者数	機器貸与件数		訪問看護利用者数	訪問看護実績
		吸引器	吸入器		
2	12	11	5	0	0
3	10	9	4	0	0
4	9	8	4	0	0

(5) 在宅療養支援地域ネットワーク事業

難病の地域ケア・ネットワークづくりを目指し、難病保健医療福祉調整会議及びステーション連絡会、難病実務者会を設置している。

医師会、障害者福祉・介護保険の担当部署、社会福祉協議会、訪問看護ステーション、高齢者あんしん相談センター及び医療機関等の関係機関の実務者により構成する会議を開催し、研修や事例検討、情報交換等を通して地域の課題を検討する場としている。

在宅療養支援ネットワーク事業実施状況(表3-5)

開催年月日	会議名	開催回数	参加者数	内容	
2	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止				
3	6月21日	実務者会(訪問看護ステーション連絡会)	1	36	神経難病の基礎知識 ～病態と最新治療、ケアの視点について～
	12月20日	実務者会(訪問看護ステーション連絡会)	1	25	ALSのコミュニケーションとツールについて ～作業療法士としての経験から～
	1月17日	難病保健医療福祉調整会議	1	17	・コロナ禍における在宅難病療養者の課題と対応について ・在宅難病療養者の災害対策について
4	8月26日	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止			
	10月21日	実務者会(訪問看護ステーション連絡会)	1	30	神経難病の実態と治療:ALS・脊髄小脳変性症を中心として
	2月16日	難病保健医療福祉調整会議	1	18	・停電シミュレーションの実施について ・災害時個別支援計画と避難行動要支援者個別避難について

(6) 八王子市在宅人工呼吸器使用者災害時支援事業

災害時の要援護者対策において、とりわけ緊急性・特殊性が高い在宅の人工呼吸器使用者に対し、災害時の被害を最小限にとどめることを目的に、「在宅人工呼吸器使用者災害時個別支援計画」を作成した。支援計画書は、家族と保健所等関係機関で情報を共有し、災害時に備えている。また、人工呼吸器使用者は、災害時において電力の供給の停止がそのまま命の危険に直結するため、自家発電機を給付する。

ア 在宅人工呼吸器使用者災害時個別支援計画策定状況(表3-6)

年度	災害時個別支援計画作成件数
2	50
3	44
4	38

イ 在宅人工呼吸器使用者災害時支援事業(自家発電機給付)(表3-7)

年度	給付件数
2	2
3	0
4	0

4 療育相談事業

自立支援医療(育成医療)や小児慢性疾患の医療費助成の申請受理・審査及び医療券の発行を保健所で実施している。また、長期にわたり療養を必要とする子どもや重度心身障害児(者)の療養上の相談や講演会、患者会支援等を行っている。

(1) 療育相談事業

保健師による家庭訪問や面接相談を行い、療養上の相談に応じている。また、東京都で実施している「在宅重症心身障害児(者)訪問事業」の申請の窓口であり、必要に応じて関係機関調整等を実施している。

療育相談対応状況(表4-1)

年度	対象	家庭訪問	面接相談	電話相談	その他の相談	関係機関連絡
2	心身障害児(者)	67	8	128	13	223
	(再掲) 重症心身障害児(者)	40	4	121	11	215
	長期療養児	23	2	64	5	217
3	心身障害児(者)	42	2	46	0	181
	(再掲) 重症心身障害児(者)	39	2	45	0	89
	長期療養児	11	5	42	1	108
4	心身障害児(者)	47	3	55	0	266
	(再掲) 重症心身障害児(者)	12	3	26	0	40
	長期療養児	23	4	111	0	41

(2) 在宅重症心身障害児(者)訪問事業

在宅重症心身障害児(者)訪問状況(表4-2)

年度	対象	利用者		終了者
		新規	更新	
2	医ケア児	4	7	6
	重 心	4	1	
3	医ケア児	2	4	9
	重 心	1	1	
4	医ケア児	2	3	7
	重 心	0	0	

(3) 在宅療養支援地域連携会議(表4-3)

年度	開催回数	内容	参加人数
2	—	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	—
3	1(書面開催)	令和3年度実績報告等	—
4	1(WEB開催)	令和4年度実績報告等	—

(4) 障害児グループ支援状況(表4-4)

「ダウン症児を持つ親子の会(ひよこの会)」に対し、情報提供等の支援を実施している。

年度	支援回数	参加人数	内 容
2	—	—	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から支援の中止
3	—	—	
4	4	31	情報共有、療育相談

5 環境公害保健

(1) 光化学スモッグ被害対策

光化学スモッグによると思われる健康被害の届出を受けた場合は、被害状況の把握及び必要に応じて現地調査を行っている。

なお、令和4年度(2022年度)の光化学スモッグによる健康被害の届出件数は0件であった。

(2) 大気汚染障害者認定審査会

大気汚染に係る健康障害者の医療費助成を行うため認定審査会を設置し、月1回審査を行った。

令和5年(2023年)3月末現在の八王子市の認定者数は2,318人であった。

大気汚染医療費助成申請件数(表5-1)

区分	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2年度	1268	111	50	70	75	108	104	112	144	109	108	148	129	
3年度	1261	145	122	128	116	114	90	107	101	98	93	73	74	
4年度	1120	67	85	60	60	97	87	100	104	93	113	123	131	
内訳	新規	21	7	3	2	0	2	1	2	0	0	1	1	2
	更新	1,099	60	82	58	60	95	86	98	104	93	112	122	129

6 受託検診

障害者通所施設の通所者等を対象に、抽選制で保健所内において簡易な健康診断を行っているが、令和2年度(2020年度)～令和4年度(2022年度)は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施せず。

受託検診(障害者施設等)実施状況(表6-1)

区分	実施回数	総数	エックス線	尿	血液	心電図
2年度	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止					
3年度	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止					
4年度	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止					

7 保健師活動

保健師活動は、地域住民の健康の保持増進、疾病の予防と早期発見・健康回復及び社会復帰への援助等を目的として、地域の保健ニーズに基づき、感染症、精神、難病、障害児等に対応する。具体的な活動内容は家庭訪問、健康相談、健康教育、関係機関との連絡調整、保健活動推進のための企画、運営への参画、保健・医療系学生への教育、実習指導及び研究活動等である。

(1) 専門的・広域的対人保健活動

ア 保健指導体制

地域を分割し、地区担当保健師が対応している。また、処遇困難事例については関連機関と連携し、複数で対応している。

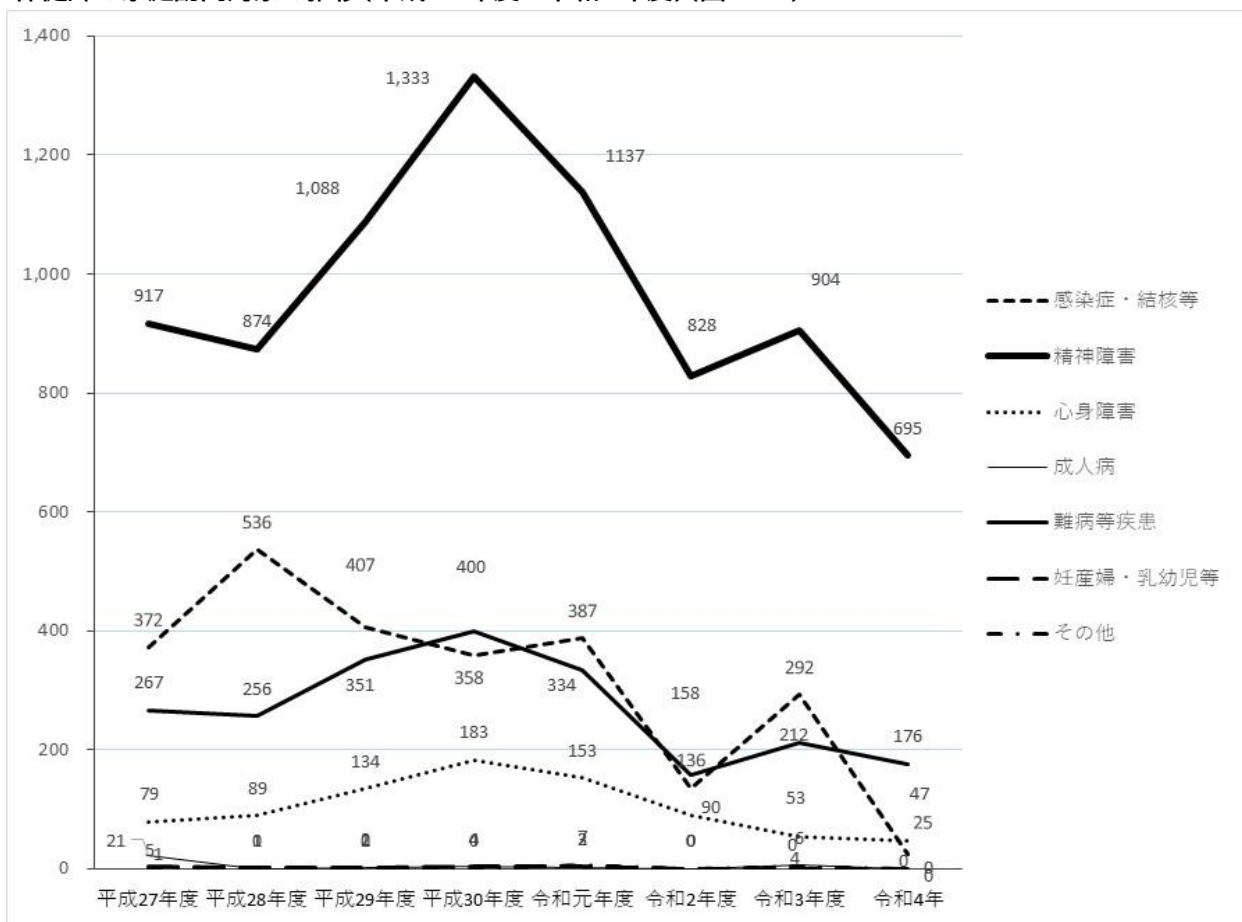
イ 地区活動状況

保健師活動状況(表7-1)

年度	区分	総数	保健対策課保健師活動(感染症・地域保健担当)														
			感染症	結核	エイズ	精神保健福祉	心身障害	成人	難病	その他疾患	妊産婦	乳児	(内訳)			幼児	その他
													未熟児	新生児	一般乳児		
2	家庭訪問	1,213	48	88	0	828	90	0	158	1	0	0	0	0	0	0	0
	所内相談	1,073	70	183	7	769	10	0	32	2	0	0	0	0	0	0	0
	電話相談	17,744	9,607	475	241	6,912	192	1	308	3	0	3	0	2	1	1	1
	文書その他の相談	927	702	68	0	66	18	0	73	0	0	0	0	0	0	0	0
	関係機関連絡	7,651	3,120	341	2	3,262	439	6	459	10	2	9	6	3	0	0	1
	合計	28,608	13,547	1,155	250	11,837	749	7	1,030	16	2	12	6	5	1	1	2
3	家庭訪問	1,471	203	89	0	904	53	6	212	4	0	0	0	0	0	0	0
	所内相談	1,128	69	190	3	811	7	2	46	0	0	0	0	0	0	0	0
	電話相談	22,021	15,447	601	117	5,435	88	31	297	3	0	0	0	0	0	0	2
	文書その他の相談	1,003	880	82	0	15	1	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0
	関係機関連絡	9,187	5,403	423	0	2,763	199	18	378	0	0	0	0	0	0	1	2
	合計	34,810	22,002	1,385	120	9,928	348	57	958	7	0	0	0	0	0	1	4
4	家庭訪問	1,065	25	122	0	695	47	0	176	0	0	0	0	0	0	0	0
	所内相談	1,327	48	236	10	962	3	1	65	1	0	0	0	0	0	0	1
	電話相談	16,355	6,201	518	207	8,842	55	9	513	3	0	0	0	0	0	1	6
	文書その他の相談	344	81	184	1	59	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0
	関係機関連絡	6,936	2,834	453	30	3,021	266	4	323	3	0	0	0	0	0	1	1
	合計	26,027	9,189	1,513	248	13,579	371	14	1,096	7	0	0	0	0	0	2	8

* 心身障害に重症心身障害児(者)及び長期療養児を含む

保健師の家庭訪問対象の推移(平成27年度～令和4年度)(図7-1)



学会報告状況(表7-2)

年度	学会名	担当名	演題
2	第79回日本公衆衛生学会	感染症対策担当	八王子市における日本語学校への取り組み ～ピアエジュケーターの育成と期待～
3	新型コロナウイルス感染拡大の影響で出題無し		
4	第18回東京都福祉保健医療学会	地域保健担当	八王子市における自殺未遂者対応 ガイド作成への取り組み
	南多摩保健医療圏地域保健医療 福祉フォーラム		
	保健予防長会		
	南多摩保健医療圏地域保健医療 福祉フォーラム	感染症対策担当	八王子市での第6波における高齢者施設 クラスター対策 ～アンケート調査から第7波への対応を考える～

8 医療費助成

小児慢性特定疾病医療費助成、療育医療及び自立支援医療(育成医療)については申請受理・認定審査・支払事務を、大気汚染医療については申請受理・認定審査事務を、妊娠高血圧症候群等医療及び未熟児養育医療については認定審査・支払事務を、指定難病等医療費助成の経由事務については申請受理・東京都への進達事務を行い、患者等に対する適切な医療の提供と経済的負担の軽減を図った。

特定不妊治療(体外受精及び顕微授精)については、令和4年4月1日より医療保険の適用が開始となったが、それ以前に自費で開始していた治療について、夫婦1組につき1回に限り助成金の申請を受け付ける経過措置をとり、治療に要する経済的負担の軽減を図った。

医療費助成申請受理件数(表8-1)

疾 病 名		申請受理件数			
		2年度	3年度	4年度	
総 数		4,442	9,283	8,875	
妊娠高血圧症候群等医療		3	6	4	
未熟児養育医療		80	105	100	
自立支援医療(育成医療)		9	11	12	
療育医療		0	0	0	
小 児 慢 性 特 定 疾 病	悪性新生物	28	67	74	
	慢性腎疾患	18	26	28	
	慢性呼吸器疾患	0	15	13	
	慢性心疾患	30	98	103	
	内分泌疾患	32	64	49	
	膠原病	13	18	14	
	糖尿病	18	29	30	
	先天性代謝異常	7	12	10	
	血液疾患	9	22	15	
	免疫疾患	1	1	1	
	神経・筋疾患	30	55	60	
	慢性消化器疾患	12	25	31	
	染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群	8	10	19	
	皮膚疾患群	1	0	0	
	骨系統疾患	6	14	14	
脈管係疾患	0	1	1		
小児慢性特定疾病 合計		213	457	462	
指 定 難 病 等 *	001	球脊髄性筋萎縮症	7	10	7
	002	筋萎縮性側索硬化症	35	42	40
	003	脊髄性筋萎縮症	1	2	3
	005	進行性核上性麻痺	34	54	55
	006	パーキンソン病	285	613	676
	007	大脳皮質基底核変性症	8	22	22
	008	ハンチントン病	0	3	3
	009	神経有棘赤血球症	0	1	1
	010	シャルコー・マリー・トゥース病	4	8	7

指 定 難 病 等 *	011	重症筋無力症	25	100	104
	013	多発性硬化症／視神経脊髄炎	32	123	130
	014	慢性炎症性脱髄性多発神経炎 ／多巣性運動ニューロパチー	6	32	36
	015	封入体筋炎	3	1	6
	017	多系統萎縮症	19	64	59
	018	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	33	147	141
	019	ライソゾーム病	2	7	7
	021	ミトコンドリア病	6	10	11
	022	もやもや病	21	64	67
	023	プリオン病	2	2	2
	026	HTLV-1関連脊髄症	1	1	1
	027	特発性基底核石灰化症	1	1	1
	028	全身性アミロイドーシス	7	15	19
	030	遠位型ミオパチー	2	5	5
	034	神経線維腫症	4	14	12
	035	天疱瘡	10	15	15
	037	膿疱性乾癬(汎発型)	8	12	12
	039	中毒性表皮壊死症	3	1	1
	040	高安動脈炎	15	23	20
	041	巨細胞性動脈炎	6	8	12
	042	結節性多発動脈炎	7	9	15
	043	顕微鏡的多発血管炎	33	53	58
	044	多発血管炎性肉芽腫症	7	10	15
	045	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	40	52	55
	046	悪性関節リウマチ	20	24	25
	047	バージャー病	4	4	3
	048	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	6	9
	049	全身性エリテマトーデス	59	282	294
	050	皮膚筋炎／多発性筋炎	34	120	125
	051	全身性強皮症	28	136	138
	052	混合性結合組織病	4	62	62
	053	シェーグレン症候群	41	57	57
054	成人スチル病	7	17	20	
055	再発性多発軟骨炎	2	2	3	
056	ベーチェット病	12	69	87	
057	特発性拡張型心筋症	37	95	89	
058	肥大型心筋症	5	13	15	
060	再生不良性貧血	25	30	33	
061	自己免疫性溶血性貧血	5	5	5	
062	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1	1	3	

指 定 難 病 等 *	063	特発性血小板減少性紫斑病	30	78	64
	064	血栓性血小板減少性紫斑病	1	3	3
	065	原発性免疫不全症候群	0	8	5
	066	IgA腎症	19	39	43
	067	多発性嚢胞腎	38	64	75
	068	黄色靱帯骨化症	19	19	28
	069	後縦靱帯骨化症	65	141	142
	070	広範脊柱管狭窄症	11	21	18
	071	特発性大腿骨頭壊死症	22	63	65
	072	下垂体性ADH分泌異常症	5	8	11
	074	下垂体性PRL分泌亢進症	1	4	6
	075	クッシング病	1	7	9
	077	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	2	16	14
	078	下垂体前葉機能低下症	21	56	63
	079	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0	1	1
	081	先天性副腎皮質酵素欠乏症	3	5	8
	082	先天性副腎低形成症	0	1	1
	083	アジソン病	0	1	1
	084	サルコイドーシス	33	60	52
	085	特発性間質性肺炎	66	158	182
	086	肺動脈性肺高血圧症	3	17	19
	088	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6	21	23
	089	リンパ脈管筋腫症	0	6	5
	090	網膜色素変性症	14	94	93
	092	特発性門脈圧亢進症	1	0	0
	093	原発性胆汁性胆管炎(旧原発性胆汁性肝硬変)	49	62	61
	094	原発性硬化性胆管炎	3	5	5
	095	自己免疫性肝炎	22	37	37
	096	クローン病	86	187	191
	097	潰瘍性大腸炎	188	716	731
098	好酸球性消化管疾患	4	5	7	
099	慢性特発性偽性腸閉塞症	0	2	2	
106	クリオピリン関連周期熱症候群	0	2	1	
107	全身型若年性特発性関節炎	2	6	6	
111	先天性ミオパチー	3	2	5	

指 定 難 病 等 *	113	筋ジストロフィー	17	21	32
	117	脊髄空洞症	1	3	2
	122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	3	2
	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	2	1	1
	125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳	0	0	2
	127	前頭側頭葉変性症	1	4	5
	137	限局性皮質異形成	0	1	1
	138	神経細胞移動異常症	0	1	1
	140	ドラベ症候群	0	1	1
	141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	1	1
	144	レノックス・ガストー症候群	0	4	2
	146	大田原症候群	0	0	1
	154	徐波睡眠期持続性棘余波を示すてんかん性脳症	0	1	0
	158	結節性硬化症	2	3	3
	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	16	8	15
	163	特発性後天性全身性無汗症	0	3	3
	166	弾性繊維性仮性黄色腫	0	1	4
	167	マルファン症候群	7	11	11
	168	エーラス・ダンロス症候群	1	1	1
	171	ウィルソン病	2	2	5
	189	無脾症候群	1	2	2
	193	プラダー・ウィリ症候群	1	2	2
	194	ソトス症候群	0	2	1
	208	修正大血管転位症	0	0	1
	209	完全大血管転位症	0	0	3
	210	単心室症	2	1	4
	211	左心低形成症候群	0	1	0
	212	三尖弁閉鎖症	1	1	3
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	2	2	
215	ファロー四徴症	0	4	4	
216	両大血管右室起始症	1	0	0	
217	エプスタイン病	1	3	3	
218	アルポート症候群	1	0	0	
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	1	0	

指 定 難 病 等 *	222	一次性ネフローゼ症候群	48	78	77
	224	紫斑病性腎炎	1	3	3
	225	先天性腎性尿崩症	0	1	1
	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	4	11
	227	オスラー病	4	6	6
	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	2	1
	235	副甲状腺機能低下症	0	0	1
	236	偽性副甲状腺機能低下症	1	2	3
	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	1	1
	240	フェニルケトン尿症	0	2	2
	250	グルタル酸血症2型	0	1	1
	257	肝型糖原病	0	1	1
	266	家族性地中海熱	0	2	1
	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	1	1
	271	強直性脊椎炎	17	24	31
	276	軟骨無形成症	0	1	1
	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0	1	0
	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0	0	1
	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0	1	1
	283	後天性赤芽球癆	2	1	3
	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0	0	1
	285	ファンコニ貧血	0	1	0
	287	エプスタイン病	1	1	1
	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症 (旧自己免疫性出血病Ⅷ)	1	3	3
	289	クロンカイト・カナダ症候群	0	1	0
	296	胆道閉鎖症	1	3	1
	297	アラジール症候群	0	1	1
	298	遺伝性膵炎	0	1	1
	300	IgG4関連疾患	6	9	11
	301	黄斑ジストロフィー	0	1	2
	302	レーベル遺伝性視神経症	1	3	1
	304	若年発症型両側性感音難聴	1	1	1
306	好酸球性副鼻腔炎	44	85	105	
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	0	1	
310	先天異常症候群	0	0	1	
311	先天性三尖弁狭窄症	0	0	1	
326	大理石骨病	0	1	1	

指 定 難 病 等 *	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1	1	1
	331	特発性多中心性キャスルマン病	8	8	8
	悪	悪性高血圧	0	0	0
	髄	原発性骨髄線維症	6	13	17
	母	母斑症	1	0	0
	石	肝内結石症	4	1	4
	好	古典的特発性好酸球増多症候群	1	0	1
	気	びまん性汎細気管支炎	4	5	5
	遺	遺伝性QT延長症候群	0	0	1
	脈	網膜脈絡膜萎縮症	2	0	1
	ス	スモン	0	2	1
	膵	重症急性膵炎(更新のみ)	1	2	2
	劇	劇症肝炎	0	0	0
	プ	プリオン病	1	0	0
指定難病等 合計			1,889	4,726	5,001
人工透析を必要とする腎不全			158	1,405	1,465
先天性血液凝固因子欠乏症等			32	35	38
原子爆弾被爆者に対する援護			57	59	57
ウイルス肝炎	B型・C型ウイルス肝炎治療(肝がん含む)		182	279	299
大気汚染医療	気管支ぜん息		1,268	1,261	1,120
特定不妊 治療費助成	助成件数		551	939	317
	助成実人数		337	526	255

※「難病の患者に対する医療等に関する法律」(平成27年1月1日付施行)に基づく医療費助成対象の指定難病は、令和5年3月31日現在338疾病が指定されている。(令和3年11月1日に指定)

難病医療費助成の対象となる指定難病等とは、東京都独自の制度に基づく疾病を含む。